



学校教育実習Ⅰに行きました。

6月5日(月)から9日(金)までの一週間、1回生が学校教育実習Ⅰに行きました。1回生は、島根大学教育学部に入学して約2カ月間を過ごし、大学内で「学校教育実践研究Ⅰ」や「教育学部で学ぶこと」などの講義を学んできました。その学びをさらに深めるために、学校教育実習として、教育現場に赴き、授業観察に臨みました。

学校教育実習Ⅰは、幼稚園に1日、小学校に2日、中学校に2日の計5日間行われました。午前中は、各園・学校で、幼児・児童・生徒の様子を見て、そこで働いておられる先生方の関わり方や授業の様子を観察しました。そして午後からは、観察してきたことをもとにして、グループごとにテーマを決めて授業協議しました。授業の進め方、教材・教具の工夫、子どもとの関わり方など、それぞれのグループで話し合いの視点を明確にした上で、活発に意見交換しました。話し合いの様子を見ていると、主体的な学習者の集まりということもあり、活発に議論し、建設的な意見が交わされる姿が見られました。

1回生にとっての教育現場での教育実習というのは、貴重な体験になりました。1回生は、教師としての資質能力を高めるために、これから積極的に1000時間体験学修に臨んでほしいです。なお、教育現場での基礎体験活動もいくつか募集が来ています。8月～9月の夏休み期間中を利用して、応募することもお勧めします。自分の目で見て教育現場を感じ、そこで働いておられる素晴らしい先生方との出会いから、自己を高めてもらいたいものです。

学校教育実習Ⅰで学んだこと

1回生は学校教育実習Ⅰで学んだことをテーマに、興味を持ったこと・印象に残ったことなどを中心に、5日間の実習を振り返りました。いくつかの感想を紹介します。

☆教育実習で気付いた教員の工夫

教育実習で、授業を客観的に見ることによって、様々な教員の工夫に気付くことができました。その中で、私が印象に残っていることが2つあります。1つ目は、小学校で見られた「静かになるまで待つ」という先生の工夫です。(中略)2つ目は、幼・小・中いずれにも見られた光景で、先生が問いを投げかけていたことです。(中略)私は、これも1つ目と同様に、子どもたちに考える力を養うための工夫であり、年齢が上がるにつれて、より具体的に根拠を立てる力も育てているように感じました。以上の2つが印象に残ったことです。



☆先生の授業のねらいについて

私は、今回の授業観察で、子どもの発達段階における違いや先生の子どもへの接し方の違い、授業をより良くするための工夫をたくさん目にしました。中でも、今回の授業観察を通して、先生方は事前に目標、ねらいをもって、どうすればうまく教えられるだろうかを考えて、授業に臨んでおられるということが分かりました。

(中略)今回の経験をこれからの教育実践に生かしていきたいし、今後、授業を行う時に見習わなければならないことも見えました。そして、自分がなりたい教師像を明確に持ちたいと思える良い機会になりました。



☆各発達段階に合わせた褒め方や叱り方について

今回、学校教育実習Ⅰを通して、幼稚園から中学校まで幅広い年齢の子どもの観察をしました。この5日間で、先生がどのような感じで子どもたちと接しているのか、発達段階に合わせて、どのような褒め方・叱り方をしているのかということに興味を持ちました。(中略)今回の授業観察を通して、各発達段階に合わせた接し方が大切だと感じました。



☆教育実習で学んだこと

今回の教育実習を通して、たくさんの先生と子どもたちとの関わり合いを観察することができました。その中でも、先生の言動や仕草の1つ1つが授業レベルの向上や子どもたちの学習意欲向上に繋がっているということを知りました。子どものやる気を引き出す一言を言ったり、笑顔を絶やすことなく学びやすい雰囲気をつくらせたりするなど、先生の果たす役割の大きさに感銘を受けました。(中略)さらに、授業観察をして終わりではなく、授業協議をすることで得られるものの多さも知ることができました。班のメンバーそれぞれで授業観察の視点が違うため、授業協議で意見を出し合い、1つの授業を深く掘り下げて様々な観点から見ていくことは、先生の工夫やそれによって子どもたちにどのような効果があるのかなどを考えるのに非常に良く、自分の視野を広げることにも繋がったと考えています。今回の教育実習で学んだことを、今後の大学での学びや教育実習にも生かしていきたいと思います。

☆教育実習を終えて得たもの

今回の実習では、まず、幼児・児童・生徒の発達段階の特徴や、それに対応した教員の指導を知ることができた。協議の際に、先輩の学生アドバイザーの方が「先生の一挙手一投足に意味がある。」とおっしゃっていたが、協議を重ねるごとに、その意味が分かる気がした。そして、授業協議では自分が気付かなかったメンバーの視点や斬新な観点を知ることができた。本格的に議論していく中で、相手の意見に同調したり、反論したり、さらに新しい発想に転換したりするなど、単なるイエスマンにならないためのよい経験もできたと思う。(中略)また、実習を通じてメンバー一人一人の個性を知ることができ、メンバーとの仲も深まった教育実習でもあった。

